

## 第2回 在宅医療推進セミナー報告書

2019年5月30日

報告者：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター  
プログラムコーディネーター 講師 中村暢彦  
京都薬科大学 病態生理学分野  
准教授 細木誠之

日時：2019年4月18日（木）18:00～20:30

場所：京都薬科大学愛学館3階愛学ホール（A31講義室）

主催：多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）～高度がん医療を先導するがん医療人養成～

共催：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター

参加者数：126名（本学：98名（学部生58名、大学院生7名、教職員33名）、本学以外：28名（渡辺西賀茂診療所6名、ゆう薬局4名、病院8名、薬局1名、他大学3名、その他6名））

### 概略：

本在宅医療推進セミナーは「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）の主催で、大学院生および学部生向けに啓発活動の一環として実施された。

### 内容：

後藤直正学長から、本学は大学院博士課程において在宅支援診療所との教育プログラムを企画し、高度で先進的な在宅医療を実践できる薬剤師の養成を進めていると紹介された。

第I部では渡辺西賀茂診療所 渡辺康介先生（本学客員教授）から「在宅チーム医療推進に向けて」と題した講演が行われた。医療モデルは医療機関完結型から地域完結型へ移行し、医療従事者の役割も治す医療から支える医療へと拡充している。薬剤師（多職種）でも全人的に患者・家族を診る必要性があり、薬学生の時から在宅研修を経験する意義までに触れられたご講演であった。次に、在宅チーム医療研修に参加した本学大学院生の友金眞光さんによる報告会が行われた。2ヵ月間の研修期間に256件の訪問を経験し、薬剤師・大学院生として在宅患者さんへ携わった症例が報告された。内服困難な患者さんに対し、薬剤の物理化学的性質を考慮し、簡易懸濁法による服用方法を提案された。患者さんの服用が継続可能により薬物療法への貢献とともに、服用薬剤の効果が現れることで薬剤師としても喜びを感じたとの報告であった。



セミナー風景



渡辺 康介 先生



友金 眞光 さん

後半のパネルディスカッションは『在宅医療と臨床薬学教育への期待』と題して、渡辺西賀茂診療所医師の小原章央先生、薬剤師の小林篤史先生、看護師の森山文則さん、薬剤師であり大学院生の友金眞光くんをパネリストに迎え行った。

小原先生からは、学生たちが「在宅アドバンスプログラム」を通じて、患者とその家族の家庭に触れ合い、患者と家族を中心とした医療の重要性を実感できたことが第一の成果であること、友金くんからは、医療チーム間および患者と医療チーム間との密接なコミュニケーションを通して、生活の一部である薬に対し専門家である薬剤師が積極的に参画する必要性を実感したとの意見が出た。在宅医療に関わる薬剤師に求められることとして、看護師の森山さんからは医療チームの一員として処方提案や服薬管理といったことのみならず、患者に対しての服薬指導や副作用に対する説明において、患者・家族を思いやる声かけの必要性についての意見が出された。また、在宅医療に関わられている小林先生からは薬剤師としての専門性を活かし、患者や家族の思いや希望の支援ができ、各々が刻々と変わる現場において考えながら積極的に在宅医療に参画していく必要性についてコメントをいただいた。

最後には赤路副学長より、薬剤師の専門性を生かした在宅医療への参画に向けた薬学教育の重要性についてのコメントをいただき、閉会となった。

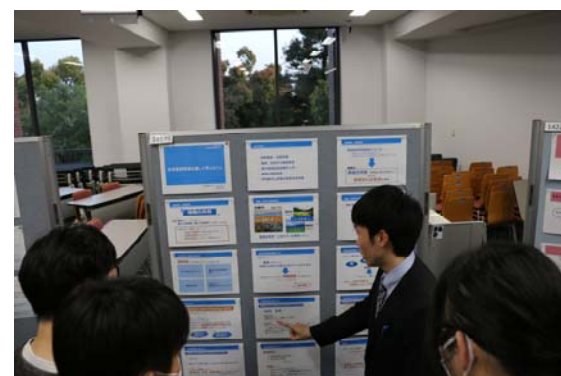
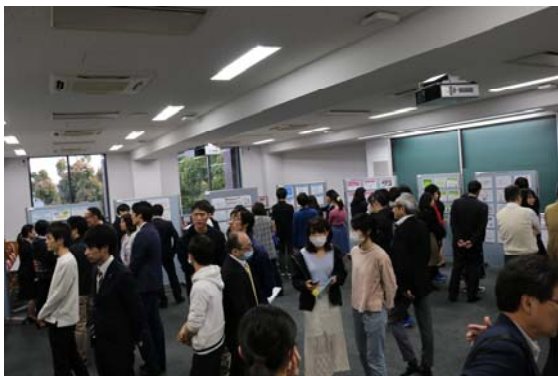


今西 講師、細木 准教授、小原 医師



森山 看護師、小林 薬剤師、友金 さん

また、セミナーとは別に、研修に参加した学部5年次生によるポスター発表が実施され、学内だけでなく外部の方々にも多数ご参加いただいた。



ポスター発表風景

【ご報告】2019年4月27日に森山文則先生がご逝去されました。先生のこれまでの、医療人養成としての臨床薬学教育に敬意と感謝を表すとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

# 「第2回 在宅医療推進セミナー」アンケート集計結果

日時: 2019年 4月 18日 (木) 18:00~20:30

会場: 京都薬科大学 愛学ホール (A31講義室)

参加人数: 126名 (本学: 98名 (学部生58名、大学院生7名、教職員33名))

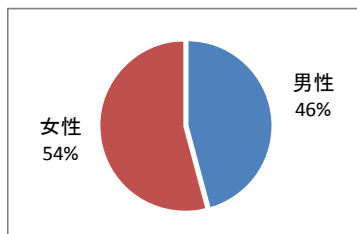
(本学以外: 28名 (渡辺西賀茂診療所6名、ゆう薬局4名、病院8名、薬局1名、他大学3名、その他6名))

アンケート回答: 72名 (回答率57%)

## 1. 聴講された方について

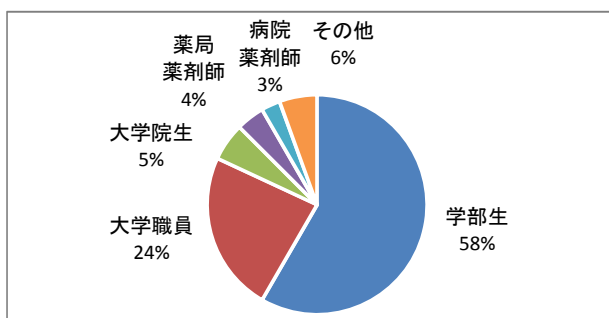
### ① 性別をお知らせください。

	男性	女性	計
人数	33	39	72
%	46%	54%	100%



### ② 職業をお知らせください。

	学部生	大学職員	大学院生	薬局 薬剤師	病院 薬剤師	その他	計
人数	42	17	4	3	2	4	72
%	58%	24%	6%	4%	3%	6%	100%



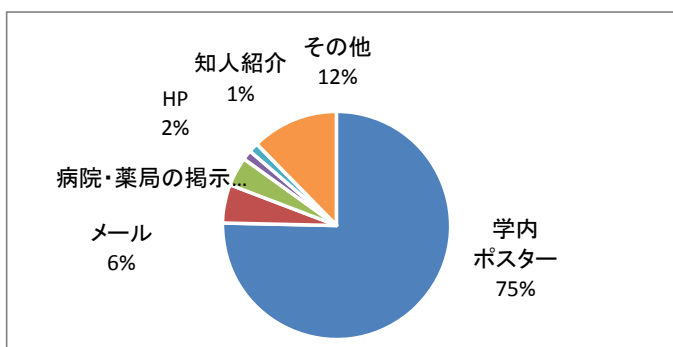
#### その他

記入なし	4
計	4

## 2. 本セミナーの開催は、何でお知りになりましたか。

	学内 ポスター	メール	病院・薬局の 掲示	HP	知人紹介	その他	計
人数	55	4	3	1	1	9	73
%	75%	5%	4%	1%	1%	12%	100%

(複数回答あり)



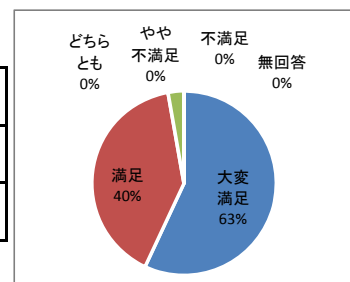
#### その他

研究室・分野	2
先生	2
実習参加時	2
記入なし	3
計	9

### 3.プログラムについて

#### ①今回のプログラムの内容はいかがでしたか。

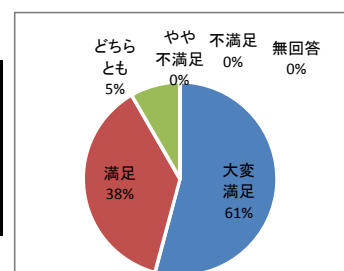
	大変満足	満足	どちらとも	やや不満足	不満足	無回答	計
人数	41	29	2	0	0	0	72
%	57%	40%	3%	0%	0%	0%	100%



理由	評価	性	職業	回答No.
在宅という今後広まるかもしれない新しい形と薬剤師への期待について学べたため。特殊な症例報告よりは、もう少し初心向けな分かりやすい内容の方が知識が薄い学部生としては有難かったのではと感じました。(院生の方の報告発表)	満足	男	学部生	5
実際に西賀茂診療所の先生方がどう思っていたらよかったのかきけてよかった。	満足	女	学部生	6
色々考えるきっかけになりました。	大変満足	男	大学職員	7
在宅医療の現状、薬剤師としての役割等を理解でき、薬学を勉強する意味、モチベーションを持つことができた。	満足	男	学部生	10
ポスター発表1時間あってもいいと思います。	大変満足	女	学部生	11
研修で得たものは大きいと感じました。	満足	女	その他	16
在宅医療現場の生の声がきけたことに大きな学びがあった。本を読んでからの参加でしたので、なおよかったです。	満足	女	その他	17
大変勉強になりました。	大変満足	女	その他	18
今までお世話になった先生方の生の声をまたきけた。	大変満足	女	学部生	19
在宅医療において、現在直面している問題に触れられたのは貴重でした。	満足	男	大学職員	22
在宅医療に関わった学生の生の声が聴けたこと。	満足	男	大学職員	28
プログラム全体を通して、病院・薬局・製薬など、すべての医療がつながっており、患者さんに向かっているのだと改めて感じました。	大変満足	女	大学職員	30
今の学生のフィールドでの活用知識をかいまみた。(臨床薬学の実践(地域において))	満足	男	その他	32
ポスター発表の時間が短すぎたので、折角学生のいい経験をきけても質問する時間がなかったことは遺憾である。	どちらとも	男	学部生	33
医師のお話の中で、特にhumanityに対する理念を聞かせていただけたこと。薬剤師も本物のhumanityを持ちたいものである。	満足	男	大学職員	37
授業だけではわからない、実際の在宅の現場での話をきけてよかったです。	満足	女	学部生	46
在宅医療について深く考えることができました。	大変満足	女	学部生	47
在宅医療の現場を想像できる内容であったため。	大変満足	男	大学職員	52
在宅について深く知ることができた。他職種の求める薬剤師を知ることができ、今後働く上で意識していきたいと思う。	大変満足	女	学部生	56
学部生および院生を含めた在宅で学んだ経験を聞いた。	大変満足	男	学部生	58
現場で感じとったこと、学んだことに加え、薬剤師としてだけでなく、医師、看護師の視点からみた薬剤師に求めるものを知ることができて良かったです。	大変満足	女	学部生	62
在宅において医療・薬剤師に求められることが一貫していたので、理解しやすかったです。	大変満足	女	学部生	63
様々な職種の方からのお話を聞くことができたから。	大変満足	女	学部生	67
渡辺西賀茂診療所の先生方から在宅医療の現状や実際に今後の薬剤師として求められることを指導して頂き大変貴重な場となりました。	大変満足	女	学部生	69
日本の人口構造の変化がもたらす医療の変化について理解が深まった。また、地域における薬剤師に対する期待を知ることができた。	満足	男	大学職員	72

②プログラムの構成はいかがでしたか。

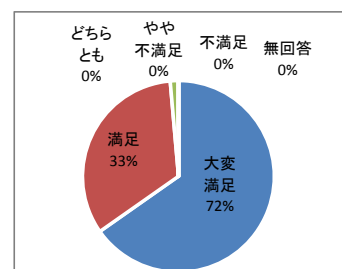
	大変満足	満足	どちらとも	やや不満足	不満足	無回答	計
人数	39	27	6	0	0	0	72
%	54%	38%	8%	0%	0%	0%	100%



理由	評価	性	職業	回答No.
パネルディスカッションのコーナーがあったのがよかった。	大変満足	女	大学院生	4
在宅医療と西賀茂診療所の考え方を初めに学び、学生の体験を知り、その上でディスカッションという形で、何も知らない状態でも分かりやすい構成だったのではと感じたため。	大変満足	男	学部生	5
パネルディスカッションが特に良かったです。	大変満足	男	大学職員	7
ポスター発表を途中にはさむのも、よいかもしい。	どちらとも	男	学部生	10
パネルディスカッションよかったです。	大変満足	女	学部生	11
聞きごたえがありました。	大変満足	女	その他	18
ポスターの時間がもう少しあるとよい。	大変満足	女	学部生	19
パネルディスカッションで、ご意見を伺えたことが最も感じ入りました。	満足	男	学部生	21
基調的内容と実地での事例に基づいた内容という構成が良かったです。	満足	男	大学職員	22
指導者側の話が多いと感じた。大学院生だけでなく、学部学生にもポスターではなく語らせてもらいたかった。	どちらとも	男	大学職員	28
研修に行った学生の話が聞けて成長している姿が見えて良かった。現場の話から在宅が少し分かった。(患者さんの生活は大事だ。)	大変満足	男	大学職員	29
比較するものを持っていない。	どちらとも	男	その他	32
色々な視点からの在宅医療のお話を聞けて、良かったです。	大変満足	女	学部生	47
パネルディスカッションがよかった。	大変満足	男	学部生	54
様々な職種の方のお話を聞くことができ、勉強になりました。	大変満足	女	学部生	57
ポスター発表で大まかに学んだ上で具体的話をきけた。	大変満足	男	学部生	58
パネルディスカッションのお話が様々な立場の方のお話を伺える機会として勉強になりました。	大変満足	女	学部生	63
現在の医療現場、患者の視点から様々なお話、薬学部・薬剤師としてどのようになってほしいかなどのお話がとても良かったです。	大変満足	女	学部生	67
学生、大学院生の経験からの目線と渡辺西賀茂診療所の方々の目線、2つの方向からの在宅医療を知ることができ、とても良かったです。	大変満足	女	学部生	69

#### 4.講師・演者はいかがでしたか。

	大変満足	満足	どちらとも	やや不満足	不満足	無回答	計
人数	47	24	1	0	0	0	72
%	65%	33%	1%	0%	0%	0%	100%

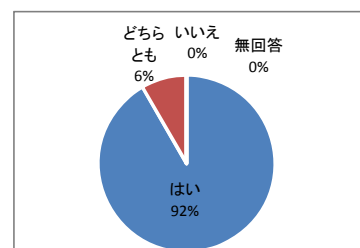


理由	評価	性	職業	回答No.
渡辺先生のお話の中に、具体例があったので訪問薬剤師として求められてくるであろう仕事のイメージをつけることができよかった。友金くんはスライドがとても見やすく、情報が入ってきやすくてよかった。	大変満足	女	大学院生	4
様々な立場の方々からその考えを聞くことができ、一方向になりやすいセミナーで多方向からの視点で学ぶ事ができたため。	大変満足	男	学部生	5
もっと現場の話が多ければ、なお良いかと思えます。	満足	男	大学職員	7
以前、渡辺先生のご講演を聞く機会があり、そこでは聞くことができなかった「おせっかい」を詳しく聞くことができ、うれしかった。友金さんの発表では、分子標的薬の治療効果をととても間近に感じることができ感動した。	大変満足	男	学部生	10
現場での出来事などリアルなお話が聞けて良かったです。在宅の大切さ(渡辺西賀茂診療所)の皆様の活躍に感動しました。	大変満足	女	その他	16
参加の看護師の方の話がもっとききたかったです。	満足	女	その他	17
現場の音がきけることはとてもいい経験でした。祖父をがんでうしなったので、色々思い返して考えました。	大変満足	女	その他	18
色々な役職の方の話がきけた。	大変満足	女	学部生	19
死に対する意識が希薄になっている時代に生に臨む姿勢を教えてくださいました。	満足	男	大学職員	22
皆さん熱い気持ちが伝わりました。	大変満足	男	大学職員	29
患者さんに対する姿勢、想いに感動しました。在宅医療のイメージが変わりました。	大変満足	女	大学職員	31
研修報告は、これまでの地域業者薬剤師の状況により、はるかに活躍していること(できること)を認められた。	満足	男	その他	32
心から話して下さっている感じがして、良かったです。	大変満足	女	学部生	47
現場で実際に活躍しておられる方々の声がきけて良い経験になった。	大変満足	男	学部生	54
とても説明が分かりやすく聞き入ることができました。	大変満足	女	学部生	56
在宅医療について薬剤師が活躍できる場面を紹介していただき、より希望が持てるようになりました。これから目指す薬剤師像の参考になりました。	大変満足	女	学部生	57
説明が上手かった。	大変満足	男	学部生	58
他職種の先生方が揃ったことで、その方々の立場から在宅医療へのいろいろな見方があることがよく理解できました。	大変満足	男	学部生	59
どの先生も在宅医療の充実に真剣に取り組みされていて、勉強になるお話ばかりでした。ありがとうございました。	大変満足	女	学部生	63
2ヶ月間実習に行かれた先輩が薬剤師としてどのように介入していくことができたのか知ることができ、在宅医療における薬剤師の役割を知ることができました。	大変満足	女	学部生	69
渡辺先生のお話で、寿命が死生観に影響すること。死生観が未熟なまま死が間近に迫った場面での“おせっかい”の中で今の医院の体制ができたこと、また現状に対する難しさや望まれることについてのメッセージに感銘を受けました。	満足	男	大学職員	72

## 5.その他

①このようなセミナーがあれば、また受講したいですか。

	はい	どちらとも	いいえ	無回答	計
人数	66	6	0	0	72
%	92%	8%	0%	0%	100%



②他に「がんに関する内容」で聴講してみたい内容がありましたらご記入ください。

聴講してみたい内容	次回受講希望	性	職業	回答No.
神経膠芽腫	はい	男	学部生	10
患者さんの生活を知る場として、もっと聞きたいです。	はい	女	病院薬剤師	14
看取り(ホスピス)について	はい	男	大学職員	22
がん患者さんとどのように接していくことができるのか。	はい	女	学部生	46
免疫	はい	女	学部生	56
がん専門薬剤師など、資格をお持ちの薬剤師の先生に、日常業務において資格を発揮するお仕事について伺いたいです。	はい	女	学部生	63
緩和医療について	はい	女	学部生	69

③本セミナーを聴講されてお気づきの点がありましたら、自由にご記入ください。

お気づきの点	次回受講希望	性	職業	回答No.
在宅研修で患者さんのケアを経験できるのは、うらやましく感じました。診療所の方々の熱い思いを聞くことができ、感動しました。	はい	女	病院薬剤師	14
自分にとっての薬剤師について考え直す機会となりました。	はい	女	学部生	19
「患者の生活を知る」ことが薬剤師のみならず、全職種が共通して心がけることだとわかった。	はい	女	学部生	20
在宅医療の重要性・必要性は十分に理解していますが、在宅が医療全体の中で特別なものであるのでしょうか？医療(これからの)に求められるものは同じなのではないのでしょうか？	はい	男	大学職員	28
森山さんの発言は、非常に感じるものがありました。	はい	男	その他	32
継続されることを期待するが、更に特に疾患や薬物治療にふみ込んだ内容に発展してほしいと思った。	どちらとも	男	大学職員	37
ありがとうございました。	はい	男	大学職員	52
在宅医療の実習に参加させて頂いて、いかに患者さんの気持ちに寄り添った医療を届けることが大切かを知ることができました。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。	はい	女	学部生	68
パネルディスカッションにおける演者の方々(看護師と薬剤師の方を除く)は、予め質問を知って答えを手短にまとめておくべきと感じました。時間が押す中、こちらがハラハラしてしまうし、もっと多くの点についてお話を聞きたかったです。	はい	男	大学職員	72